

空

天地廣大

清々と

氣前よく

天地は広くて 大きい

清々と 生きるのが

似合う

氣前よく 生きるのが

ふさわしい

天地は広くて 大きい

清々と 氣前よく

実感して 生きる

実感を大切に

所沢くだけけ会にて

心と頭と五官の世界

人間の頭の構造は大変面白くてきていて興味津々です。

生まれたての赤ん坊の時には知識は何もなく組み込まれた智慧か本能に従って生きて行くのですが、だんだんとモノを知っていくのです。それに従って経験知は「ちょっと知っている」から「ある程度知っている」と成長するにつれて、解っていることが増えていくのです。

だんだんと大人になると「すべてが解っている」と言うような気になって行ったりします。実はそれって、モノゴトの真実のことではなくて「知識による理解」の範囲なのです。僕の頭なんか知識による理解と認識の世界でしたらある意味、もうとつくにコンピュータに負けているのです。そうとうボケていますから。

人間の頭は（心も含めて）ウツカリしていると選択を間違えてしまう仕組みにできていてそ

の原因が「思い込む」とか「思い煩う」などの「思い」にあるのです。「思い」と言うのは大脳のはたらきでしょう。こんなに大きく発達した頭が間違いを犯しているとなると、たいいてい人間はその間違いのまま「辛い」だの「苦しい」などと言って悩んでいるのではないのでしょうか。そこでお釈迦さんのように気づいた人が「それは真実のすがたじゃあないよ」と教えてくれるのですが、そんなことも聞き入れないくらいに頑固にかたくなに「思い」にしがみつきます。

五官の世界から開放される

頭の中で知っていることを組み立てて、これでもかこれでもかと組み替えてみて「これが真実だ」と突きとめて行くのが科学的思考です。

知っている情報のフル活用ですから「もうこれ以上の答えはない」とイキズまります。

正誤、大小、長短、遠近、美醜、損得……と言った比較の（相對の）世界から見ているのでしまいに、高低（学歴、地位、成績、財産、等々）でどっちが偉いかなんてことに捉わられて

行くのです。それってすべて五官の世界です。

五官を通して感ずる五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触る）は生きて行くのにとっても大切なことです。五感なくして何ごとも味わえないのですから。しかし、それが「思い」と言う捉われになつて行くとしたら、そこから解放されて行く道も探し求めなければなりません。

目の見えない人が「見たい見たい」と拘って、見えるようになればいいのですが、おそらく一度その「思い」や願望は捨てなきゃあならないのでしよう。「見える」と言うことの別に外界のことを何か受け取る方法があるようです。それって目の見える人にはわかりません。きっとわからないのです。見えている人は「見える」ってことに頼って生きているのですから。

ですから自分の「思い」や「計らい」は正しいと思つて疑うこともない人がほとんどです。これまた不思議なことです。

そういう人に「五官から開放される」って言ったって何のことやら通じませんから、あちら

の世界のことだと片づ

知の感性を鈍らせ

子どもに「勉強って

のか」とよく問われま

勉強って何のために

成績のため？ 進学

のため？ ……ナルホ

しい答えですが、それ

からはずれていきますね

識や技術の習得の意味

ので「その結果」を思

ることは別物です。

一番大切なのは「知

だといつも言ってるの

実感のない「知」が

いものにしてしまつて

ことに今の教育の結果

物を覚えて知っている

ありません。そんな役

くは勉強ができる」と